

高校

教科【外国語】

単元【話すこと・書くこと】※各課の最後の授業を想定

主体的・対話的で  
深い学びのポイント

クラウド等を効果的に活用することで、題材についての深い学びを促し、表現の意欲を高める。

ICT活用のポイント

音声入力機能を活用し、話す能力を育成するとともに、Google Classroomやテキストマイニングを活用し、書く能力を育成する。

使用する  
ICT機器

PC(1人1PC)、プロジェクト

使用するアプリ・  
クラウドサービス等G Suite (Classroom、フォーム)  
テキストマイニングクラウド  
の活用教材の配布・回収等 資料等の共有  
生徒の学習状況の把握 その他( )本時の  
ねらい

音声入力機能を生かし正しい発音を身に付けさせるとともに、レッスンのまとめとして、クラウドサービスを活用しテーマに基づく自分の考えを適切に表現する能力を育成する。

主な学習活動  
(学習場面)

ICTの活用・留意点等

評価

導入

- 本時の目標を確認する。
- 前時の内容を振り返る。

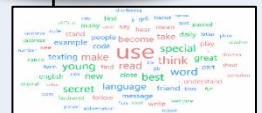
一斉



- ・Classroomにアクセスし、前時の確認と本時の目標を確認する。
- ・ペアになり、前時で学習した英文の要約を相手に伝える。その際、ドキュメントの音声入力機能を活用し、話した英語が正しく認識されているか確認する。
- ・音声入力された相手の英文を修正する。
- ・提出された英文をテキストマイニングし、重要語句を確認する。



指針2・3・6



展開

- 本課のテーマについてのインタビュー及び英作文を行う。

個別

協働

【中間の振り返り】

一斉

【英作文の提出】

個別



- ・テーマについて、ペアでインタビューを行い、自身の考えについて意見交換する。
  - ・テーマについて、ドキュメントに英作文を入力する。
- ※共有機能でお互いの英文を確認することで、アドバイスしたり修正したりすることができる。

【テーマ例】(LANDMARK English Communication I より作成)

- 絶滅危惧種を救うためにできること
- 制服の是非

指針2



- ・いくつかの英文を表示し、よい例や課題等、全体に関わる内容及びポイントを共有する。



- ・作成後、Classroomで提出する。

指針6



(提出された英文について、内容に対する質問をしたり、Classroomで返却したりする。)



ICT機器



【思】聞いたり読んだりしたことを基に、与えられたテーマについて、自身の考えを含め、適切に表現している。

ここで評価

終末

- 家庭学習を提示する。

個別



- ・フォームにて、テキストマイニングした重要単語のテストを作成し、QRコードを掲示する。



- ・QRコードからテストを読み込む。

指針2・6

※ 表内の指針1～6は、「ICT活用授業指針」8ページにあるICT活用授業の目指す姿1～6を表しています。

※ ICTの導入が目的化しないように、ICTを活用する場面と活用しない場면을効果的に組み合わせることが重要です。

※ 評価の観点【知】=知識・技能【思】=思考・判断・表現【態】=主体的に学習に取り組む態度

※ テキストマイニングとは、文章中にある単語や文節の出題頻度などを自動的に分析する手法のことです。自由記述をテキストマイニングで分析することで、迅速にクラスや学年の全体傾向をみることができたり、そのテーマで使用できる単語等の集約をすることができたりします。